

「町の歴史は先人の偉業のたまもの」

東京新冠会副会長 武田 雅雄



昨年、新冠町は開町130年・町制施行50年という節目の年を迎え、記念すべき様々な事業が展開され、その事業の一つとして郷土誌の発刊がある。発刊の意図は、先人の偉業と歴史を掘りおこし、後世に伝えようと3年の歳月を費やしたものの、町の歴史、産業、文化等多岐にわたる掲載内容である。



郷土誌を手にして、先人がこの地を永住の地、終の栖と見え、万古の森を切り拓き、鍛え入れた頃は電気もなくランプでの生活、当時の開拓が如何に劣悪、かつ過酷な環境下で推進されたのかうかがい知ることとなった。ところで時代は

異なるが、父もまた、新天地での農業を夢見て家族とともに人跡未踏の地に挑んだ一人である。父が開墾を進める土地の多くは天然ガスを含んだ泥炭の湿地帯、そこに自生している雑木、ヨシ及び谷地坊主の伐採・除去。更に土壌の水捌けを良くするための暗渠を施す作業、この何れも鋸、鎌、鉋及びスコップ等を用いた手作業、重機が導入されていない当時の手作業が如何に困難を極めたものか、幼い頃のことではあるが、今でも鮮明に思い起こすことができる。

しかしながら、父が夢と希望を抱きながら挑んだ開拓も、厳しい自然環境の洗礼と、加えて健康等の問題もあり、数年の後に志半ばで離農を決定し、後に石油店を営む。そのような父の人生は、波瀾万丈に満ちた人生であったものの、それでも一度も町を離れることなく、町をこよなく愛し、町で一生を終える。町の歴史を顧みると、幾多の社会情勢の変

重ね重ねのお礼を

東京女満別会会長 宇野 旭



皆さま、観ていただけましたか。

女満別高校、春の選抜初出場に際しましては多くの方々の厚いご支援と熱い応援を賜ったこととを再認識させられた。動、度重なる天災地変など変遷極まりない歴史の中で、今日もなお故郷が存在し、繁栄を遂げていることは、紛れもなく開拓に意欲を燃やした先人の英知と、雄大な郷土づくりのたまものであることを再認識させられた。

今日、故郷を離れ異国の地に生活基盤を置き生活している私が、今、故郷のために何を成すべきか、何を成せば故郷に寄与できるのか、少なくとも先人のご偉業に深く敬意を表することは勿論のこと、先人の意思を受け継ぎ、故郷が未来永劫存続し、さらなる着実な発展を遂げるよう、これからは故郷とは今までの以上に密接な関わりを持つていこうと意を強く感じるところである。

さいました。感謝しております。

これを機会に、北海道ふるさと会連合会主催の「産直フェア」に参加し、ふるさとニセコ町の農産品、乳製品、加工品等を全国に向けて大々的にアピールすべく、関係者一同、月1回打ち合わせをして、着々と準備を進めました。何分にも右も左も解りません。伊野会長はじめ役員の方々のご指導ご鞭撻を切にお願いする次第です。今後ともよろしくお願ひ申し上げます。

参考までに東京ニセコ会会長と事務局は次の通りです。

会長 徳田 清
事務局 徳山貞夫
電話 04(7184)7056

設立と入会にあたり

東京ニセコ会常任幹事長 羽生 昭三



ふるさとニセコ町を思い、発展を願う関東在住の有志数人が発起人となり、東京ニセコ会設立に関して、片山健也ニセコ町長にお話ししたところ、ニセコ町も協力しますとのあり

関東在住者総人数60余名のご出席をいただき無事終了しました。第3回総会は平成25年3月2日(土)に開催されます。

たいお言葉をいただきました。数回の打ち合わせ後、東京ニセコ会設立総会を開催者のご支援により、平成23年3月6日(日)東京お茶の水ホテルジュラクにて開催しました。当日は逢坂誠二衆議院議員(前ニセコ町長)、片山健也町長はじめ、ニセコ町関係者、

ふるさとニセコ町の活性化と発展に寄与する具体的行動を模索していたところ、「北海道ふるさと会連合会」の存在を知り、早速入会手続きについて森副会長にご相談したところ、快くご指導いただき無事平成24年4月入会する運びとなりました。誠にありがとうございます。

日高昆布の専門店、小売も致します。

日高根昆布醤油 塩分9%

日高昆布醤油 塩分13%

北海道海産物総合卸商社
マルエー商事株式会社
橋爪 年幸 (東京株式会社 会長)

本社 北海道様似町本町1丁目64
TEL 01463-6-3823

東京支店 東京都多摩市乞田687-1
TEL・FAX 042-339-6471